

平成19年度病害虫発生予察注意報第4号

平成19年9月13日
発表：福島県病害虫防除所

- 1 対象作物：モモ
- 2 病害虫：せん孔細菌病（来春の春型枝病斑）
- 3 対象地域：県内全域
- 4 発生量：多い

予報の根拠

- 1 中通り北部における新梢葉での発病は、8月上旬以降、増加傾向にある（図1、2）。
- 2 9月上旬の調査では、新梢葉の発病ほ場割合・発病程度とも例年より高く、発生量がかなり多かった（図1、2）。特に、伊達地域では激発し、すでに落葉しているほ場も認められた。
- 3 本病原菌は、9月以降に落葉痕から枝の組織内に病巣をつくって潜伏越冬する。また、春から夏に形成された枝の病斑周辺部の組織に潜伏越冬する可能性がある。越冬した病原菌は、翌春に春型枝病斑を形成するが、これが重要な伝染源となる。春型枝病斑の形成量は、9月中旬～下旬の降水量との相関が高いので警戒する必要がある。
- 4 9月7日発表の向こう1か月の気象予報では、降水量は平年に比べて多いと見込まれている。また、台風9号の通過に伴う葉の損傷等により今後の発生拡大が懸念される。

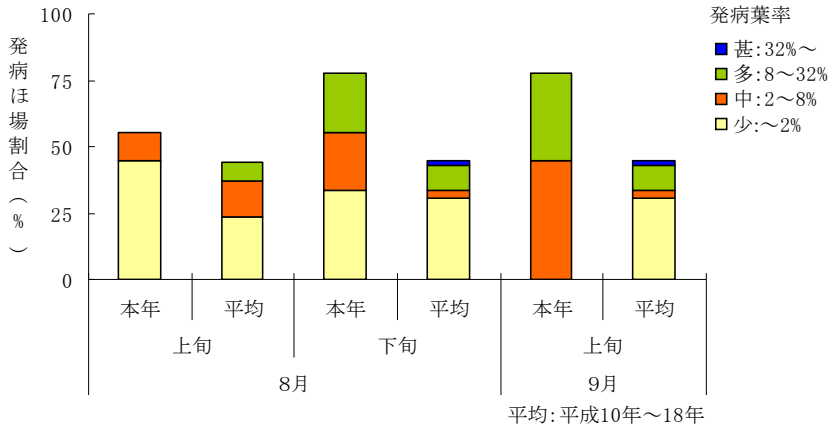


図1 新梢葉におけるせん孔細菌病の発病状況(福島地域)

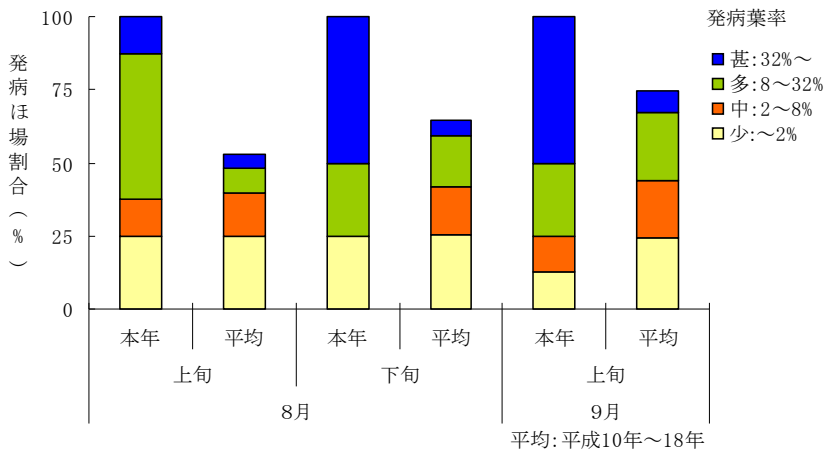


図2 新梢葉におけるせん孔細菌病の発病状況(伊達地域)

防除対策

1 越冬病原菌密度を低下させるため、収穫終了後、9月上旬～下旬にかけて必ず秋季防除を2回行う。さらに、発生の多かったほ場では、落葉する前までに特別散布として防除を1回追加する。なお、散布にあたっては、散布ムラがないように十分な量を丁寧に散布する。

2 防除薬剤は、**4-12式ボルドー液**または**ICボルドー 412 30倍**を使用する。なお、9月中旬以降に散布する場合には、4-12式ボルドー液またはICボルドー 412にかえて、**クレフノン 100倍加用****コサイドDF 1,000倍**（使用期間は収穫後から落葉まで）を使用できるが、本剤は高温時等の散布で落葉等の薬害を生じることがあるので注意して使用する。

● 薬剤の濃度のアンダーラインは、平成19年版福島県農作物病害虫防除指針で採用している濃度を示す。

● 情報内容への質問や要望は福島県農業総合センター安全農業推進部 発生予察グループ（病害虫防除所）までご連絡ください。

Te1 024-958-1709 Fax:024-958-1727

● 本情報は、福島県病害虫防除所ホームページ <http://www.pref.fukushima.jp/fappi/index.html> でもご覧になれます。